



発行所 一般財団法人滋賀県遺族会
滋賀県大津市におの浜4丁目2-34
滋賀県遺族会館
電話 (077)522-7227
FAX (077)522-7233
発行責任者 滋賀県遺族会長 岸田 孝一

戦争の悲惨さを次世代に

平和祈念滋賀県戦没者追悼式

平成28年平和祈念滋賀県戦没者追悼式が918人の参加を得て、8月20日滋賀県文化産業交流会館で行われた。滋賀県主催の式典としては第3回目となる。

式場は1300本の余の菊花で飾られた祭壇と、滋賀県警察音楽隊の生バンドの演奏で凛とした空気が紹介された。イン



追悼の辞を読み上げる岸田孝一滋賀県遺族会長

「平和に向けて、まだまだしなければならぬ」とがたくさんある。「平和な日本が世界の模範となっていくよう英霊のご加護を祈念する」と結んだ。
三者とも戦争の悲惨さを次世代にしっかりと伝えることが大事と述べた。
献花の後、東近江市立聖徳中学校の西村芽生さんが平和メッセージ「戦跡・当時と現在」を読み上げた。平和祈念館事業のピーススクールに2年連続参加して、県下の戦跡を巡り学習して得た感想だ。「世界みんなが仲良く笑顔で暮らせることを願っている」「私たちの世代が、戦争と平和の尊さを語り継いでいくような知識を身につけたい」「私たちの町にも戦禍が及んだこと、たくさんの方々が死なれたこと、今も苦しんでいる人がいる事実を忘れてはならない」「これからは平和のことを伝える人になりたい」と、しっかりと口調で

力強く訴えた。ロビーには、平和祈念館によるパネル展示がなされ、小中学生の平和ポスターや、滋賀師範学校昭和18年卒業生で、特攻隊員となった戦死した4人の方の遺影と遺品が展示され、参加者の目を引いた。(広報 北村 哲雄)

第35回慰霊と平和祈願リレー行進

戦没者の慰霊と世界恒久平和を願う



三日月大造知事、野田藤雄滋賀県議会議長も加わり出発式の記念撮影

滋賀県遺族会は平成28年8月9日「第35回慰霊と平和祈願リレー行進」を行った。この行進は、20世紀最大の出来事であったあの忌まわしい大戦を終え、毎年8月15日の「戦没者追悼日」、平和を祈念する日」を迎えるに際して、遺族が一家の大黒柱の父や肉親を戦争で失いながらも、戦後の混乱期を生き抜いてきたことを、これらの体験を再び誰にもさせたくないことを強く願う、滋賀県内各地域の皆

さんへ訴えることを目指したものである。また、今日の我が国の平和と繁栄は、先の大戦で尊い命を捧げた250万人も英霊の賜物であることを決して忘れず、「再び戦争を起こさない」「戦争遺族を作らない」と力強く訴え、戦没者の御霊を心からお慰めるとともに、平和の尊さを次の世代に伝えることを目指したものである。
この趣旨は、「戦没者の慰霊と世界恒久平和への願い」と

11月の海外戦跡慰霊巡拝に参加

三日月滋賀県知事が表明

滋賀県庁前では、三日月知事から「11月の滋賀県遺族会主催の海外戦跡慰霊巡拝(フィリピン方面)に、遺族会員と一緒に参加する」と表明があり、早々と要望事項に答えが出され、リレー行進は大いに沸き上がった。一方、平成27年度まで行われてきた徒歩行進と街宣車による

る啓発の集団示威運動は今回から取りやめとなった。県庁前では、三日月知事、野田藤雄滋賀県議会議長、藤本武司滋賀県健康福祉部長など来賓の皆さんや地元遺族会員が、例年になく静けさの中、マイクロバス5台の行進団を見送った。(広報 田中 正彦)

要望書

第35回慰霊と平和祈願リレー行進で訪問した草津市、栗東市、守山市、野洲市の各市長に要望した内容要約は次のとおりである。

草津市

英霊顕彰の忠魂碑維持管理、次世代子ども達への平和学習、遺族の高齢化と孫世代による青年部立ち上げ活動などへの理解、指導、支援を要望する。

守山市

平和の広場に植樹し根付いた「被爆柿の木2世」の剪定管理、守山市内にある23カ所の慰霊碑・忠魂碑に次世代へ正しく伝える説明文の建立、そのための協議の場を作ること等を要望する。

野洲市

英霊顕彰の思いが市民全体の心に刻み込まれるよう、市主催の「平和のつどい」をはじめ、あらゆる機会を通じて啓発すること、市内5地区忠魂碑の維持運営取り組み等を要望する。

栗東市

平和祈念栗東市戦没者追悼式(9月3日)開催への感謝と市民全体の平和祈念行事としての定着化、次世代戦跡訪問研修事業への市教育委員会並びに学校長の支援協力、栗東市内600余柱の英霊を祀る滋賀県護国神社の春秋例大祭、みたま祭、10月にオープンする英霊顕彰館へ市民を代表して市長の参拝および靖国神社への参拝、栗東市内5カ所の忠魂碑・英霊殿周辺の清掃管理及び施設建造物の保全管理を行政が主体的に行うこと等を要望する。

みたま祭

ひとこま

平成28年8月13日から15日の3日間、滋賀県護國神社の境内に提灯を吊り、5ワットの薄明かりを灯し、県下3万余柱の英霊をお慰めする「みたま祭」が行われ、今年度で40回目となった。県下各地遺族会員が小型献灯料2500円を奉納し、戦没者の俗名や献灯者の名前を記した短冊を個々の提灯に吊り下げるものである。晴天下に風で揺れる金色の短冊、ほのかな明かりで静まる境内を埋め尽くす提灯は幻想的であり、在りし日の英霊を想い、懐かしく過ごす夏のお盆行事として最良である。

(広報 田中 正彦)

戦没者の妻が参拝

(8月13日)

娘さんに教えてもらいながら亡き夫の提灯短冊を手にして、感慨にふける老婦人の姿があった。山崎たまさん(満94歳6ヶ月、日野町在住)だ。夫の竹次郎さんは昭和19年5月10日に出征し、翌年6月18日フィリピン・リザール州(ルソン島)で戦死という極めて厳しい戦いに一気に巻き込まれたものであったそうだ。夫の戦没後は、たまさんの母方に居候しながら、農業や日雇いの労働者、仕立物の仕事にいろいろな職業に従事し、ひたすら一人娘の無事成長を目指したそうだ。居候を終え、自宅新築後の生活では、借入金返済のためなお一層励んだとい



亡き夫の短冊を手にする山崎たまさん

近江八幡市長みたま祭に参拝

(8月13日)

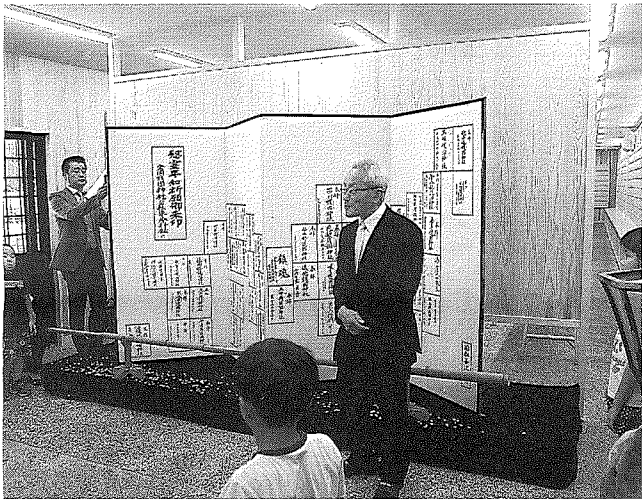
守山市、大津市、東近江市など各地遺族会からバスによる「みたま祭」参拝が見られる中で、富士谷英正近江八幡市長の参道を進む姿があり、「ようこそお参りいただきました」と声をかけた。その後、神社駐車場に近江八幡市遺族

全国護國神社朱印状屏風を奉納

(8月14日)

かつての彦根藩主・井伊家が所蔵していた国宝「彦根屏風」が彦根城博物館で鑑賞できるが、この度、同じエリアの滋賀県護國神社に「全国護國神社朱印状屏風」が奉納された。滋賀県遺族会相談役の國松善次氏が自転車で全国の護國神社を参拝し、各神社でいただいた朱印状を屏風に仕上げたものである。国宝に勝るとも劣らない大切な屏風である。

平成28年8月14日、國松夫妻と家族の皆さん、岸田孝一滋賀県遺族会長、大久保貴彦根市長など関係者出席のもと、滋賀



奉納した朱印状屏風を説明する國松善次氏

議員が多数参列 滋賀県戦没者追悼慰霊祭

(8月15日)

会のバスが到着し、市役員の杉浦俊雄氏から伺った話によると、富士谷市長は、近江八幡市遺族会の皆さんと一緒に「みたま祭」に参拝されることになっていて、との説明であった。

8月15日午前11時半より、政府主催の全国戦没者追悼式に合わせ、滋賀県戦没者追悼慰霊祭が滋賀県護國神社で齊行された。山本賢司宮司に由る祝詞奏上の後、岸田孝一滋賀県遺族会長などが玉串を奉納した。

ラジオから流れる正午の時報を合図に黙禱。天皇陛下の「おことば」を聞きながら、参列した遺族会員や国会議員、滋賀県議会議員の皆さんは、御霊の安らかならんことを祈り、世界平和と命の大切さをしっかりと後世に繋いでいくことを誓い合った。

- 衆議院議員 上野賢一郎
- 同 武村 展英
- 同 大岡 敏孝 (代理)
- 参議院議員 二之湯武史
- 同 家森 茂樹
- 同 小寺 裕雄
- 同 佐野 高典
- 同 西村 久子
- 同 川島 隆二
- 同 富田 博明
- 同 細江 正人
- 同 岩佐 弘明
- 同 山本 進一
- 同 加藤 誠一
- 同 今江 政彦
- 同 中沢 啓子

第40回みたま祭

短冊のない提灯に課題

みたま祭は、県内3万4千柱の英霊をお慰めするための行事であり、護國神社境内にバランス良く提灯を吊るし、心をこめたお慰めをすることが求められています。準備作業は、祭礼(みたま)委員会と彦根市遺族会が中心となって進めました。6月16日、午前は護國神社境内の葉刈り作業、午後は県内郡市遺族会長宛に短冊などの発送作業。7月上旬、提灯の吊り棚設置などを行う業者の入札と契約事務。7月18日、提灯吊り棚設置用ポール建て込み穴の確認作業、倉庫保管場所から提灯の運び出し作業、みたま祭に必要な物品の調達。8月10日、契約業者の提灯吊り棚、電球取り付け、提灯の一部取り付け完了を確認し、郡市毎の提灯取り付け位置の明示作業。これらが平成20年から変わることなく続けているみたま祭の準備作業手順です。8月13日から3日間、みたま祭本番。

第40回みたま祭 郡市別献灯数

郡市名	割当数		実績数		郡市名	割当数		実績数	
	大型	小型	大型	小型		大型	小型	大型	小型
大津市	2	552	1	467	東近江市	2	699	6	635
高島市	2	342	3	294	蒲生郡	3	240	4	240
草津市	2	153	2	123	愛知郡	2	137	3	78
守山市	2	232	5	242	彦根市	2	365	8	329
栗東市	2	165	3	157	長浜市	2	590	2	440
野洲市	2	213	2	203	米原市	2	227	2	202
湖南市	2	129	4	128	犬上郡	4	86	4	83
甲賀市	2	455	3	380					
近江八幡市	2	415	14	391	合計	35	5,000	66	4,392

委員長 藤田武男

全国戦没者追悼式

感想文

今年も、暑い、暑い、夏の一

滋賀県遺族会

副会長 木津 美智子

終戦から71年目を迎えた8月15日、政府主催の全国戦没者追悼式が、東京の日本武道館で開催され、参列させてい

たいただきました。宿舎からバス2台で日本武道館へ直行するその道路上の物々しい警備の中、全国から多く集まって来られた参列者のバスは順序良く誘導され、予定通り館内へ入ることができました。

館内では、多くの報道関係者や警備の方々等で、日頃感じることのない緊張を覚えました。天皇皇后両陛下がお席に着かれた時、6千余人の参列者の静まり返った雰囲気、身震いを感じる瞬間でもありました。

天皇陛下は「過去を顧み、深い反省とともに、今後戦争の惨禍が再び繰り返されないことを切に願ひ、戦陣に散り、戦禍に倒れた人々に対し、心から追悼し、世界の平和と我が国の一層の発展を祈ります」とお言葉を述べられました。

安倍晋三首相も「戦争の惨禍を決して繰り返さない。それが御霊に報いる途と信じています」と締めくくられました。

本年度は、戦争の記憶継承のため、戦没者のひ孫世代となる10歳から17歳の男女14人

変化に対応し継承

滋賀県遺族会青年部会

部会長 辻 正人

が、献花者に花を渡す「補助者」を初めて務められました。参列者の高齢化が目立つ中、最高齢者は101歳の方、最年少は5歳の男の子とのことでした。戦後生まれの人が多く見られる館内ではありましたが、杖を頼りに参列されていた人も何人かお見受けし、71年の時の流れを感じる一日でありました。私にとっては、顔も見たことのない父を偲ぶ、暑い、暑い、夏の日でもありました。

最後に参列しましたが、同行いただいた滋賀県職員の方々、深く感謝しお礼申し上げます。ありがとうございます。

やとと会えた
待望のひじいちゃん
草津市立高徳中学校2年 柴野 恭彦

毎年8月15日は、僕の家族と伯父さんの家族全員がお盆の精霊参りに、ひばあちゃん宅に集まる日です。そして、テレビに映る全国戦没者追悼式に合わせ全員で黙祷をし、ひばあちゃんから戦争で亡くなったひじいちゃんの話や、食べ物も不自由な当時のみじめな生活などの話を聞いたりします。

僕は、一度この追悼式に参列してみたいと思っていました。今年、この思いが実現したのです。

8月14日から15日、全国戦没者追悼式へ参列するため、

場に集えし者が「先人の貴い犠牲の上に成り立っている今日の平和」を感謝し、「英霊への哀悼の意」を表わしている

「日本人としての美意識に満ちた凛とした空気」と表現したい。その空間で、今の自分より若くしてこの世を去った祖父たちに胸の中で感謝を伝えることができた。

同時に、我々孫世代遺族の課題は、変化に対応しながらこの美意識を継承していくことであると、改めて感じた追悼式であった。

文末ながら、この空間を体験させていただいたことに感謝を申し上げます。

そこで話された、もう二度と我々遺族と同じような悲しい、辛い思いをする人を出さない、と言う強い願いが伝わり、深く印象に残っています。僕のひばあちゃんも全国にたくさんいらつしやる遺族の方々と全くと同じ思いでいるのだと考えると、僕たち若い世代が積極的に平和について考え、行動をおこすべきだと思えました。

実際に戦争を体験した方から話を聞けるのは僕たちの世代が最後です。だからこそ、今も元気に暮らしているひばあちゃんから話を聞き、この先ズットと友だちや仲間たちに語り継げるよう、身近なことから一つずつ取り組んでいきたいと思えます。

最後に、今回このような貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございます。今更けなかつたことをたくさん知ることができました。

東京へ行ってきました。1日目は、靖国神社の本殿に参拝したあと、ひばあちゃんから聞いていた「戦争で亡くなられた兵士の方々や、原爆の被害を受けて亡くなられた方々の顔写真が貼られたパネル「靖国の神々」や戦争に関するさまざまな展示品がある遊就館」を見てまわりました。どれも戦争と平和のことについて考えさせられるものでした。パネル「靖国の神々」の中には、僕のひじいちゃんの写真もありました。

次世代の役割

さらに重要

滋賀県遺族会青年委員会

委員長 澤本 長俊

8月15日、日本武道館で行われました日本政府主催の「平成28年全国戦没者追悼式」に、滋賀県遺族会青年部の一員として参列しました。滋賀県からの参列者は47人で、会場には全国の遺族の皆さん約六千余人で満席となりました。

安倍晋三首相は式辞において、「未だ帰還を果たされていない多くのご遺骨に対して、一人でも多くの方々が故郷に戻っていただけるよう全力を尽くします」と述べられました。平成27年1月に、パラオ共和国へ海外戦跡慰霊巡拝に参加した折、ご遺骨が目の前にあつても連れ帰ってはいけないという事柄を聞かされたので、安倍首相の述べた「お一人でも多くの方々が故郷へ」は、国を挙げて努力すべきであると思えました。

天皇陛下から、「先の大戦において、かけがえのない命を失った数多くの人々とその遺族を思い、深い悲しみを新

たにいたしました。過去を顧み、深い反省とともに今後戦争の惨禍が繰り返されないことを切に願ひます」とお言葉があり、戦争も知らないし、戦死した祖父とも会ったこともない私ですが、胸の奥で「ありがとうございます」という言葉がわき出て、陛下に向って一礼をしていました。

陛下のお言葉や首相式辞の

今年度から18歳未満の戦没者のひ孫世代が献花者に花を渡す献花補助者を務めた



参議院議員選挙当選お祝い

平成28年7月10日行われた第24回参議院議員通常選挙では、滋賀県選挙区選出議員選挙で小鍵隆史氏が、比例代表選出議員選挙では水落敏栄日本遺族会会長が見事に当選されました。両氏の当選を祝福するとともに、お一人お一人の活躍を祈念いたします。

（滋賀県遺族会 会長 岸田孝一）



参議院議員 小鍵 隆史

先ず参議院議員選挙に際しましては、格別のご支援、ご厚情を賜り、誠にありがとうございます。お陰をもちまして当選の栄に浴することができました。心より厚くお礼申し上げます。

戦後70年余、わが国は益々混迷の度を深め、貴遺族会の果たす役割には大きな期待が寄せられています。初登院では国会正面に立ち、その責務の重大さを痛感するとともに、覚悟を新たにしました。次第であります。今後とも変



参議院議員 水落 敏栄

滋賀県のご遺族皆様には、お元気で過ごしてのことと拝察いたします。平素より格別のご厚情を賜っておりますこと、心より感謝申し上げます。また、先般の参議院比例代表選挙では、滋賀県はじめ全国のご遺族皆様の温かいご支援に支えられ3期目の当選を果たすことができました。加えてこの度、安倍改造内閣において、文部科学副大臣・内閣府副大臣を拝命いたしました。偏にご遺族皆様のご支援の賜物と厚くお礼申し上げます。

この上は、皆様に頂戴しましたご支援を深く胸に刻み、真に豊かで安定した平和国家構築のため、教育施策の充実にご尽力して参りますので、引き続きのご指導とご支援を賜りますよう、切にお願い申し上げます。

（文部科学副大臣・内閣府副大臣）

この調査は、本問題の解決に必要となる情報を収集するためのものである。調査の結果、本問題の解決に必要となる情報は、以下のとおりである。

調査の結果、本問題の解決に必要となる情報は、以下のとおりである。調査の結果、本問題の解決に必要となる情報は、以下のとおりである。

調査の結果、本問題の解決に必要となる情報は、以下のとおりである。調査の結果、本問題の解決に必要となる情報は、以下のとおりである。



調査の結果、本問題の解決に必要となる情報は、以下のとおりである。調査の結果、本問題の解決に必要となる情報は、以下のとおりである。

調査の結果、本問題の解決に必要となる情報は、以下のとおりである。調査の結果、本問題の解決に必要となる情報は、以下のとおりである。

調査の結果、本問題の解決に必要となる情報は、以下のとおりである。調査の結果、本問題の解決に必要となる情報は、以下のとおりである。

調査の結果、本問題の解決に必要となる情報は、以下のとおりである。調査の結果、本問題の解決に必要となる情報は、以下のとおりである。



守山市の学校教育の場で、ユニークな次の2つの平和学習の取り組みがありましたので紹介したいと思います。

①守山市立小津小学校6年頼富七星さんの夏休み自由研究

②私立立命館守山高校1年、2年、3年からなる「ポーランド、ドイツ、ピーススタディツアー2016」の報告

①頼富七星さんの夏休み自由研究から

夏休みの自由研究に「戦争と平和」をテーマに取り上げました。県内各地の戦争の足跡を調べ、模造紙1枚にまとめています。小学生が取り組む自由研究は大半が「あさがおの研究」とか「くもの巣はどのように張るか」など自然観察が多いものです。頼富さんはそれを選んで、戦争の足跡を追求したのです。

私と頼富さんの接点は、守山市遺族会が従来から取り組んでいる「平和のよろこび展」を見学し、昭和20年7月30日の守山駅列車襲撃事件のパネルをみて、もつと詳しく知りたいと自宅を訪問してくれた時に始まります。昭和20年7月30日の守山駅列車襲撃事件があったことは勿論知りません。守山駅近くの吉身共同墓地の六体地蔵の石の頭が欠けていること、近くの民家の天井などに9か所銃弾の跡が残っていること

ていました。ものすごく戦争はこわいし、むなしという気持ちがとても伝わってききました。多くの人が戦争で亡くなったことを決して忘れてはいけないこと、日本は絶対に戦争を二度としないこと、日本がよくなりました。そこで、広島や長崎さだけてなく、今ほくが住んでいる滋賀県ではどんなことがあったのだろうとものすごく興味をわきました。

研究で工夫したことは3つあります。

一つ目は、図や写真を使って分かりやすくしたこと。ただ、資料を見て文章を書くだけでは分からないのでそうしました。

二つ目は、戦争のつめあがった場所に行き、自分の目で実さに見たこと。すなわち行けない場所、たとえば機関車ひなんごうや、飛行機えん体ごうや自衛隊の広報館を見学しました。また、大津市歴史博物館の倉庫に保管されているパンプキンばくだんの模型も見せてもらいました。

三つ目は、遺族会の会長さんのお宅に訪問し、戦争体験の話聞かせていただきました。体験談で聞いた、流れ弾にあたっておじょうさんを見に行きました。71年前からそのままずっと守山に残されていることにおどろきました。

今、守山は平和です。みんなが笑顔で幸せにつつまれる毎日が続くことをぼくは願っています。

いか、と考え、神社総代会での協議を経て実現した次第です。「滋賀県英霊顕彰館」と命名致しました。現在3200件のお申し込みをいただいております。お飾りできるスペースは6千件ですから、まだまだ余裕があります。周囲の方々にお知らせいただき、この機会に是非ともお申し込みくださるようお願い致します。

戦前、戦中派世代の方が次第に鬼籍に入られ、戦争そのものを知る人が減少しています。このままでは、将来「英霊」という言葉の意味は無論、言葉そのものが消滅するかも知れないと、危惧します。

私どもは、英霊のご存在を永久に伝承してゆき、感謝と慰霊の誠を捧げ、顕彰してゆかねばなりません。先祖の営みがあつてこそ、現在の自分が存在するのであります。日本という国の存在もまた然りです。護國神社接室の扁額に、前身である招魂社造営の由来が記されています。「英霊のおまつりには身寄りの有る無しにかかわらず力を尽くす

遍の知識しか持ち合わせていません。それを高校生10人が現地を訪れ、語り部さんの話を聞き、引率の先生の指導も受けながらまとめ、堂々と発表しました。

引率の田辺記子教諭は「今回の研修を通して生徒に考えさせたことは『ホロコースト(大虐殺)は戦争の悲惨さだけでなく、人種問題や難民問題、多文化共生など現在につながる諸問題を提起している』という



最大級の犠牲者を出した「負の世界遺産」アウシュヴィッツ・ビルケナウ強制収容所を見学する立命館守山高校のみなさん

- ③ 引率者 立命館守山高校教諭 田辺記子 計10人
- ④ 日程及び研修国 実施期間 平成28年8月4日(木)～8月11日(木) 6泊8日 研修国(都市) ポーランド(ワルシャワ、クラクフ)、ドイツ(ベルリン)
- ⑤ 感想 今回の研修を通じて生徒に考えさせたかったことは、「ホロコーストは、戦争の悲惨さだけでなく、人種問題や難民問題、多文化共生など、現在につながる諸問題を提起している」ということです。ユダヤ人への差別は、戦時においては「虐殺」という形で現れ、「残虐行為」とみなされました。しかし、平時においても難民問題に無関心であったり、ヘイトスピーチをすることが平然とまかり通る世の中であるとすれば、それらもまた同じように「残虐行為」なのだということに、私たちは気づかなければなりません。そうでなければ、戦争が始まった

必要がある。ましてや責任ある地位の人には当然尽くさねばならない。そのことが正しく国を守る。故郷を愛することに繋がるのである」と。現世に生きる我々の責務として英霊の祭祀に力を尽くさねばなりません。そして顕彰してゆく必要があります。英霊顕彰館の意義はそういう点にもあるのです。

夏のみたま祭に際し、一部のお写真をお飾りしてご見学願います

あるということ。強制収容所の中にはユダヤ人の方から没収した靴や食器などがたくさんありました。もう二度と家に戻ってこれないことを知りながら、どうしようもなく持ってきた家族の写真や、強制収容所に行くことを子どもに悟られないようにして安心させるために、鞆に詰め込まれた食器や鍋を見ていると胸の奥が痛くなってきた、目をそらした気持ちになりました。

この気持ちは、教科書で写真を見ながら勉強している時には絶対に出でこないものだと思います。実物を見ることは感じ方の重みが違うと思えました。当時のドイツ軍は命令だけをしてユダヤ人に行きさせていたので、悪いことをしているという気持ちはなかったのですが、私は何も感じない傍観者にはなりたくありません。

だから、今世紀に起こっている問題に対して何ができるかを考えて行きたいと改めて強く感じました。

まとめ 今回取り上げた頼富七星さんの夏休み自由研究、立命館守山高校の「ポーランド、ドイツ、ピーススタディツアー」での体験報告は素晴らしい内容です。次世代の皆さんの視点と理解・認識がすばらしいと感じました。

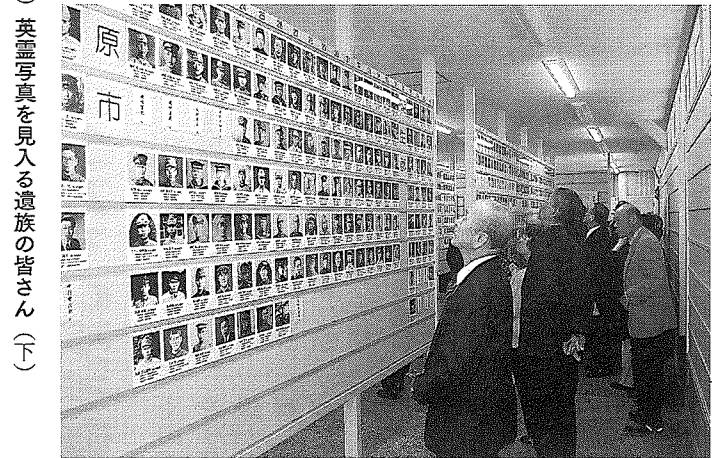
英霊のお写真お申し込みと掲揚展示につきましては、各遺族会の皆様に格段のご協力を賜りました。紙面をお借りいたしました。厚くお礼申し上げます。

滋賀県英霊顕彰館 開館にあたり

滋賀護國神社 宮司 山本 賢司

秋季大祭が齊行された10月5日、待望の英霊顕彰館が開館致しました。昨年の11月に着工してから約1年、構想準備から3年、漸く開館に至り安堵しています。数年前でしたか、ある遺族の方のお申し出により、英霊のお写真をお預かりすることになりました。その方が仰るには、「家を継承して

くれる者が英霊に無関心であり、私の死後、恐らく英霊に関する事は廃棄処分されるでしょう。それでは申し訳ないの



滋賀県英霊顕彰館のエントランス(上) 英霊写真を見る遺族の皆さん(下)

熊本地震被災者への義援金募集結果

皆様から寄せられた熊本地震義援金は、滋賀県遺族会理事會にて報告され10月末日に熊本県遺族会宛に送金されました。ありがとうございました。(広報委員会)

都市町名	金額
大津市	125,500
高島市	206,300
草津市	129,300
守山市	21,000
栗東市	50,000
野洲市	30,000
湖南市	151,000
甲賀市	368,500
近江八幡市	100,000
東近江市	613,931
蒲生郡・日野町	142,100
蒲生郡・竜王町	142,500
愛知郡	20,000
彦根市	372,500
長浜市	78,300
米原市	183,900
犬上郡・豊郷町	10,000
犬上郡・甲良町	62,000
犬上郡・多賀町	10,000
合計	2,816,831

沖縄平和祈願慰霊大行進

沖縄「慰霊の日」の意義を痛感

6月23日、沖縄県、沖縄県議会主催の「平成28年度沖縄全戦没者追悼式」並びに沖縄県遺族連合会、日本遺族会主催の「沖縄平和祈願慰霊大行進」が行われ、滋賀県代表として、栗東市から野村しげ子さんと私の2人が、日本遺族会からは、水落敏栄会長、畔上和男専務理事他2人、全国から59人が参加しました。

6月22日、現地ホテルに集合。受付、結団式を済ませ夕食後、摩文仁の丘の沖縄平和祈願堂で行われた追悼式前夜祭に参加しました。第一部は式典。献

火、献鐘、鎮魂のこゝろ、献花。第二部は琉球古典音楽献奏及び琉球舞踊奉納。天皇陛下が皇太子時代の昭和50年、海洋博開会式にご出席のため沖縄を訪問された時、南部戦跡を巡拝され、そのお氣持をお詠みになり、その後毎年6月22日の前夜祭の時に琉歌の曲にのせて厳肅な中で献奏されます。

6月23日早朝、糸満市役所隣の南浜公園市民広場で、第55回平和祈願大会が行われました。式典では、宮城篤正沖縄県遺族連合会長、議会の方々、水



横断幕を持ち行進する、左からの場恵美子さん、野村しげ子さん

落敏栄日本遺族会長等の挨拶がありました。住民を巻き込んだ戦いがあったこの

沖縄で、「慰霊の日」が制定された意義を痛感し次の世代に語り継ぐのが私たちの使命だと思いました。平和祈願大行進は午前9時出発。ひめゆりの塔を通過し、摩文仁集落から平和祈念公園までの約8・5kmを県内外の約1200人が炎天下の中を行進しました。地元の人たちのお茶塩飴、バナナなどの心温まる接待に元気づけられました。71年前は一滴の水を口にすることもなく、米軍の火炎放射器や爆雷、砲弾の中を南へ南へと敗走し、多くの尊い命が失われた沖縄の人たちのこ

とを思うと、ありがたく冷たい飲み物を頂き、平和で豊かな時代に生きていることを実感しました。午前11時過ぎには全員が平和祈念公園に到着し、整列して会場へ。横断幕、日遺旗、各県郡市遺族会旗を掲げて入場しました。

集団的自衛権の行使を認める安保関連法が施行されて以降、初めての「慰霊の日」であり、普天間飛行場の県内移設に向けた政府の対応や米軍属による事件発生などを考慮してか、例年になく警備態勢だと感じました。平和の礎には、71年経った今でも新た

に84人が刻銘され、沖縄戦が住民を巻き込んだ如何に残酷で不条理な戦争であったか、沖縄の歴史と今なお沖縄への基地負担の事実を真剣に受け止め、取り組まなければならないと思いました。夜、懇親会があり、自己紹介、父の思い出話、他県の人たちとの情報交換などの交流や琉球舞踊で、今日一日の疲れが癒されました。6月24日、朝食後解散。飛行機の出発時間まで世界文化遺産の首里城を見学しました。明治政府に明け渡すまでの500年の琉球王国宮殿

遺族の心中を察するとき



滋賀県議会議員 富田 博明

「国のため命をささげし人々の、ことを思えば胸せましく、これは、戦争の終結を決定された、昭和天皇のお言葉であります。

「私はどうなるうとも国民の命を助けたい、今日まで戦場であつて戦死し、内地にあつては悲命に倒れた者や遺族の事を思えば、この際私のできることは何でもする」と、時の米軍マッカーサー元帥のべられ、マッカーサー元帥は「なんとこのような素晴らしい天皇陛下をもつ日本人は幸せである」と述べられたそうです。

昭和16年12月8日真珠湾奇襲攻撃に始まった大東亜戦争、その多くの英霊が、祖国を想い、死の恐怖と戦い、家族を思いつつ戦場に倒れ、今なお異国で眠っておられます。

また、日本の祖国のために守り抜かれた沖縄戦でも、数多くの尊い命を犠牲にしてこられました。この事は、70年以上経った今、国旗国歌を崇拜し、世界平和を祈り、世界の歴史に輝く今日の日本

社会を築き上げてくださった遺族の方々の、心の支えになっていたいたいた貢献者であり、戦没者皆様のお陰と感謝申し上げます。

ここに改めて、戦争の犠牲となられた英霊に心からご冥福をお祈りいたしますとともに、最愛の肉親を失い悲しみを一日たりと癒されることなく苦難を乗り越えてこられたご遺族に、深くお心をお察し申し上げます。

また、戦後の混乱した日本を、悲しみをこらえ、戦死者を敬いながら世界に恥じない日本に築き上げていたいたいた遺族の皆様、頭が下がる思いです。

今年も、滋賀県議会議員として沖縄戦没者追悼式に参加させていただきます。

ここに改めて、戦争の犠牲となられた英霊に心からご冥福をお祈りいたしますとともに、最愛の肉親を失い悲しみを一日たりと癒されることなく苦難を乗り越えてこられたご遺族に、深くお心をお察し申し上げます。

また、戦後の混乱した日本を、悲しみをこらえ、戦死者を敬いながら世界に恥じない日本に築き上げていたいたいた遺族の皆様、頭が下がる思いです。

地にあつては悲命に倒れた者や遺族の事を思えば、この際私のできることは何でもする」と、時の米軍マッカーサー元帥のべられ、マッカーサー元帥は「なんとこのような素晴らしい天皇陛下をもつ日本人は幸せである」と述べられたそうです。

昭和16年12月8日真珠湾奇襲攻撃に始まった大東亜戦争、その多くの英霊が、祖国を想い、死の恐怖と戦い、家族を思いつつ戦場に倒れ、今なお異国で眠っておられます。

また、日本の祖国のために守り抜かれた沖縄戦でも、数多くの尊い命を犠牲にしてこられました。この事は、70年以上経った今、国旗国歌を崇拜し、世界平和を祈り、世界の歴史に輝く今日の日本

社会を築き上げてくださった遺族の方々の、心の支えになっていたいたいた貢献者であり、戦没者皆様のお陰と感謝申し上げます。

ここに改めて、戦争の犠牲となられた英霊に心からご冥福をお祈りいたしますとともに、最愛の肉親を失い悲しみを一日たりと癒されることなく苦難を乗り越えてこられたご遺族に、深くお心をお察し申し上げます。

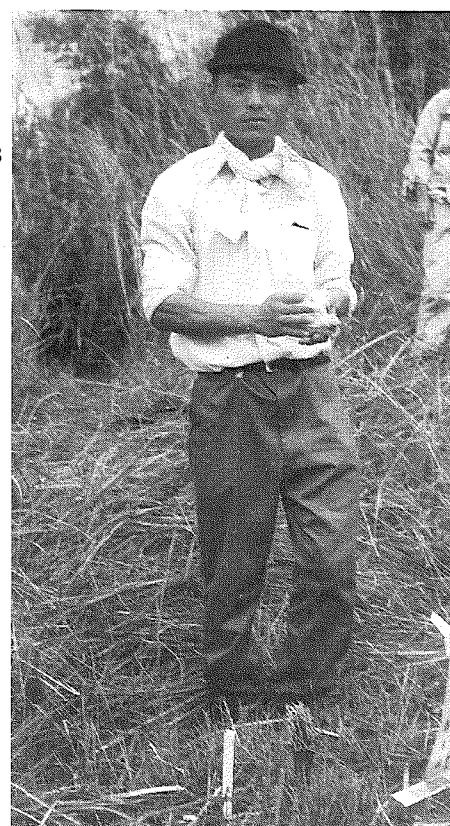
また、戦後の混乱した日本を、悲しみをこらえ、戦死者を敬いながら世界に恥じない日本に築き上げていたいたいた遺族の皆様、頭が下がる思いです。

今年も、滋賀県議会議員として沖縄戦没者追悼式に参加させていただきます。

ここに改めて、戦争の犠牲となられた英霊に心からご冥福をお祈りいたしますとともに、最愛の肉親を失い悲しみを一日たりと癒されることなく苦難を乗り越えてこられたご遺族に、深くお心をお察し申し上げます。

また、戦後の混乱した日本を、悲しみをこらえ、戦死者を敬いながら世界に恥じない日本に築き上げていたいたいた遺族の皆様、頭が下がる思いです。

父たちの死を無駄にしてはならない



昭和48年フィリピンの遺骨収集に参加した福嶋睦一さん(フィリピン・ボソボソ地区神方山にて)

私は昭和43年に滋賀県遺族会に入会して以来、昭和46年のマリアナ(サイパン島)の遺骨収集に参加して、国家の英霊に対する余りに酷い対処に憤りを社会の人たちに発表いたしました。その後、昭和48年には父の戦没地フィリピン(ボソボソ地区)へ、父の戦友の手紙を持参して、父の終焉の地を見定めることができました。

残念ながら時が経ち過ぎて、余りに多くの遺骨は、作業を手伝ってくれた住民から我々の畑の肥料(骨粉)として使ったと聞き、これが

戦争なのだ心に受け止めました。政府は毎年多額の予算を計上して、海外の遺骨収集を続け

てはいますが、戦没者の約半数100万人以上が今も異国の地で祖国への帰国を待ち望まれています。また、この遺骨と同様に英霊に対する国民の意識が平和ボケして薄らいでいるう

え、総理の靖國神社参拝がいつまでも議論されているようでは先の大戦の戦争責任者が曖昧な形で今に続いているように思います。

私は、入会以来組織の一員として精一杯活動してきたつもりですが、時の政府に騙され、これでは父たちは国家のために戦死したものの、無駄死同様ではないかと、心が痛みます。組織は高齢化が進みますが、次世代の方々の大きな力を借りて、目的の達成を望みます。

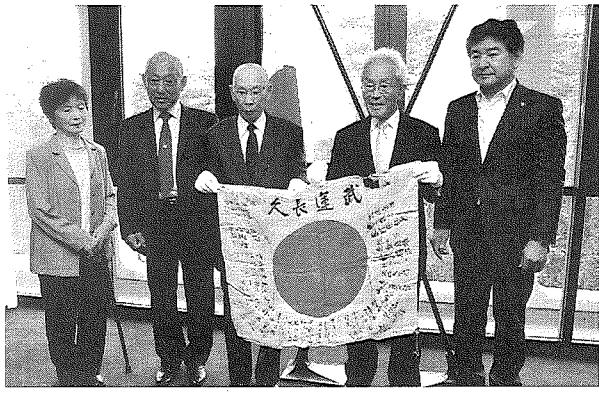
(東近江市 福嶋 睦一)

たびたびなみ

再度「日章旗帰る」

東近江市遺族会 藤田 武男

平成27年12月14日に続いて、本年6月20日二度目の日章旗が東近江市に帰って来た。今回の日章旗については、出征兵士の氏名が記されていなかった。これでは所持者の判明は無理と思われたが、OBONソサエティーの日本広報・捜索担当工藤氏が平成19年、滋賀県東部版電話帳個人名編に旗の署名者の内3人が東近江市上羽田町で記載されていることを発見され、本年3月29日、東近江市社会福祉協議会長宮部氏へ旗の画像と署名者のリストがメールで送られてきた。



返還式に出席した小椋正清東近江市長、OBONソサエティー國松善次氏、森田時雄東近江市平田支部長ら関係者

そこで、東近江市平田地区自治連合会や遺族会平田支部の協力を得て調査の結果、署名者の内1人が今も健在であることが判明した。聞き取り調査の結果、当時平田村上羽田南方住民で青年学校生と先生が中心となり、10枚ほど日章旗を作成し、生徒が出征する都度1枚ずつ渡していたものの1枚であることが分かった。

したがって東近江市遺族会平田支部で受領し、大切に供養したいとの思いをOBONソサエティーに返事をし、今回の返還式を迎えることができた。

この日章旗の持ち主であるジェームス・O・ビックフォード氏からは、「この日章旗を元あった故郷へ、そして地域の皆様のお目に留まる場所で保管していただけると知り、お返しできることを心より嬉しく、光栄

野洲地区戦没者慰霊祭を斉行

野洲地区遺族会長 永田 征二

9月10日、御上神社境内の奉斎殿にて平成28年度野洲地区戦没者慰霊祭を斉行しました。猛暑が続く、また台風が次々と来襲する中お天気を心配しておりましたが、幸いに若干の冷気を感じる秋晴れの天候に恵まれ、無事終了することができました。なお、野洲地区では毎月10日月並祭を行っており、今月は月並祭と併せて斉行しました。

当日は山仲善彰野洲市長、市木一郎野洲市議会議長、稲垣誠亮野洲市議会議長、富波義明滋賀県議会議長はじめ野洲市自治連合会からは4学区連合会長、社会福祉協議会会長、滋賀県防衛協会支部長等多くのご来賓のご臨席を賜りました。また、遠路のところ、岸田孝一滋賀県遺族会長もご臨席を賜りました。

広大な境内の自然豊かな森閑とした杜に囲まれた奉斎殿。ここには野洲地区517柱の英霊が祀られています。この御前で垣内御上神社宮司の祝詞奏上、地区会長の祭文、ご来賓の弔辞、玉串奉奠と肅々と続き、一般会員の白菊献花、役員の手紙で

に思っております。父がどのようにしてこの日章旗を入手したのかお知らせできればよいのですが、父は決して戦争時のことを語ろうとはしませんでした。父は米軍の陸軍航空隊に所属しており、フィリピンに駐屯し、そこで戦ったという事は分かっています。どうかこの旗の持ち主あるいはそのご家族が見つかりますよう祈っています。

最も大切なのは、この旗が70年を経てついに故郷に戻れたということだと思えます。先の大戦で戦い、また命を落とされた方々に心から深い敬意を表して、ジェームス・O・ビックフォード」とのメッセージが寄せられていました。

締めくくり、無事終えることができました。厳粛な中、英霊への感謝と遺族関係者のご健勝を祈念しつつ、今年も式典が無事行われたことに役員一同安堵と感謝に満ち足りた一日でありました。

他の地区と同様、高齢化、会員減少、そのことから役員選出の困難、諸行事遂行の困難、忠魂碑の維持管理等々万端の課題山積の中、最重要である英霊顕彰行事だけは是非継承していきたいと思っております。



祭文を読み上げる永田征二野洲地区遺族会長

せられていた。返還式には前回同様、小椋正清東近江市長を立会に、OBONソサエティー國松善次氏から森田時雄東近江市平田支部長へ返還された。森田支部長は「感無量です。日章旗に記された氏名は上羽田町南方の人が多い、出征兵士の遺族を探すとともに、末永く地区遺族会の鎮魂堂に大切に保管し、地区慰霊祭の際には戦没者の遺影とともに祭壇に飾りたい」と感謝の言葉を述べられた。

多数の市議参加 要望書手交式

草津市遺族会連合会 重田 美津子

平成28年度の滋賀県遺族会「慰霊と平和祈願リレー行進」は、草津市が順路となりました。今年度より「広報車による集団示威運動は取りやめ、徒歩行進はない」と聞いていました。要望書手交式会場となるアミカホールにどんな様子で行進団が到着するか心配していましたが、市役所駐車場から庁舎前を経て会場まで約100mを整然とした行進が行われ、会場に集まった草津市遺族会員一同はもとより、草津市副市長をはじめ多数の市役所職員、市議会議員の皆さんの大きな拍手を受けて行進団が到着されました。

木村正昭草津市遺族会連合会会長が要望書を朗読し、善利健次副市長に手渡した後、副市長から公務出張中の橋川渉草津市長のメッセージを代読いただき、更に草津市選出の奥村芳正滋賀県議会議長、西田剛草津市議会議長からも激励の言葉をいただきました。

要望した内容は、忠魂碑の維持管理や次世代子ども達への平和学習、高齢化遺族と孫世代の青年部立ち上げ活動等へのご理解とご指導、ご支援をお願いしました。行進団代表の岸田孝一滋賀県遺族会長と善利副市長が固い握手を交わされ、市議会の西田議長、伊吹達郎

英霊塔月並法要

草津市遺族会連合会長 木村 正昭

平成28年6月15日、膳所英霊塔において月命日の法要が行われ、今月は草津市のお参りの当番です。15人の参加でお参りをさせていただきました。9時30分膳所公園に到着。県本部の役員さんと英霊塔の付近を除草やはき掃除をして、きれいに整理整頓ができました。

10時30分、法傳寺住職の丁寧な読経が始まり、参拝者20数人がありがたく焼香をし、住職の法話に納得し無事終了しました。私たち一行はその後直会の食事を開き、日頃の遺族会活動について話し合いました。仲間同志のコミュニケーションがとられ、和気あいあいの雰囲気です。食事が進みました。このような機会が活発になり、仲間が増えるのではありません。

副議長を先頭に多くの議員の皆さんや市役所幹部職員の皆さんに出席いただいた手交式での私たちの要望事項は、必ずや実現するものと心に強く確信しました。真夏、酷暑の時間帯で、建物や木陰を求めての要望書手交式でしたが、何より多くの皆さんの参加により大成功であったと思います。次の訪問地での成功を祈念しつつ、マイクパス5台に分乗した行進団の皆さんを拍手で見送りました。

- | | |
|------------|-------|
| 草津市教育長 | 川辺 正 |
| 草津市総合政策部長 | 山本 義信 |
| 草津市健康福祉部長 | 太田ひろみ |
| 衆議院議員内閣政務官 | |
| 武村 展英 秘書 | 東野 司 |
| 滋賀県議会議長 | 奥村 芳正 |
| 草津市議会議長 | 西田 剛 |
| 草津市議会議長 | 伊吹 達郎 |
| 草津市議会議員 | 遠藤 覚 |
| 同 | 奥村 次一 |
| 同 | 木村 辰己 |
| 同 | 瀬川 裕海 |
| 同 | 棚橋 幸男 |
| 同 | 中嶋 昭雄 |
| 同 | 中島 美徳 |
| 同 | 中村 孝蔵 |
| 同 | 横江 政則 |



木村正昭草津市遺族会会長から善利健次草津市副市長に要望書を手渡す(上) 行進団を拍手で迎える草津市役所職員や草津市議会議員の皆さん(下)



負けず嫌いは今も健在

高木 そとさん(98歳・近江八幡市)



母は隣町の北之庄町という所から、戦争中の昭和16年に嫁いできました。私は昭和17年に生まれて現在75歳であります。

母は日本の平均寿命を越し、現在98歳でボケもなく、自分で何事も行い元気に暮らしております。女一人、子一人の中で、母は若い頃から体が弱く、大変痩せており、親元のお兄さんの助けを受けながら、女の細腕で細々と農業(3反)を営み、戦後の大変苦しい日々を頑張ってきました。親父の兄妹が10人で、女の方(おばさん)が9人という中、まだ母より若い叔母さんが3人おられ、父母の面倒を見ながら暮らして来ましたが、大変経済的に厳しい思

いが今も身に染み付いております。昭和37年、私が高校を卒業後就職し、初任給1万2千円を手渡した時の母親の喜びの顔が、今も鮮明に心に残っております。戦後の厳しい時代にあって、高木家を守りながら、親戚の付き合いを行い、近所や遺族会の未亡人の付き合い等、負けず嫌いの根性は今も生きております。他人に頼らない精神力は学ぶところ多しといった感じでもあります。子ども私の私が負けそうな感じであり、私が今、たまたま病気をしたところ、息子(75歳)の死を見るまでは死ぬまいといつも言っており、本当にびつくりしているところでもあります。

私は、節目の100歳まで、一つの区切りとして元気に生きて欲しいと思っているところでもあります。(近江八幡市遺族会 会長 高木 健三)

元気の秘訣は新聞を読むこと

西岡 芳枝さん(97歳・守山市)



暑さ厳しい折り、いかがお過ごしでしょうか。今日は、突然ですが元気なおかあさんをお訪ねします。

今は、速野支部では西岡芳枝さんお一人となつてしまいましたので、訪問させていただきます。戦後71年になり、いろんな苦悩を乗り越え、過ぎ去ったことが思い出されます。久しぶりにお会いして、とても元気でいてくださることにびっくりしました。

速野支部、守山市の追悼法要ではお見かけいたして、私の母とも長いおつきあいをしていたのでおりました。日常生活はどのようにお過ごしでしょうか。お元気の秘訣は、毎日の朝食の前に新聞を目を通されて、その後にお食事をされるそうです。メガネをかけておられなくて、耳も健在で、本当に頭の下がる気持ちです。お孫さんとも一緒にお暮らしのようで、幸せな生活を送っておられます。残暑厳しい折から、どうかいつもでもお元気で、長生きしてください。ようお祈りいたします。(守山市遺族会 女性部長 石井 宏子)

芳名簿を献納し追悼

米原市遺族会 吉田 佐代子



米原市平和祈念式典で芳名簿を献納する吉田佐代子さん

米原市遺族会では終戦70年記念事業として、遺族会員の現状調査と芳名簿の作成を行ってきました。先ず遺族会員の現状調査から始め、これをデータ化して、芳名簿は各字毎に戦没者氏名・戦没地・戦没日を筆耕記載により立派に完成されました。この芳名簿は、8月6日(土)米原市伊吹草の里文化センターにおいて米原市主催の米原市平和祈念式典で遺族を代表し、女性委員4人によって献納させていただきました。ひととき清閑さの中、白菊香る祭壇に旧町毎に納められた芳名簿に在られる英霊に参加者全員で追悼の誠を捧げました。

戦後70年を経た今、平和な社会に恵まれ何不自由なく日々を過ごさせていたただける幸せは、英霊お一人お一人が尊い命を懸けてお守りいただいた賜と胸の迫る思いでいっぱいでした。この度、このような大役に臨ませていただいたご縁をありがたく感謝しています。

町民参加で末永く続けよう

日野町遺族会長 奥野 義明

戦後71年目の平成28年8月24日、不戦と恒久平和を願う日野町戦没者追悼式が、町民会館「わたむきホール虹」で遺族をはじめ、来賓等約200人が参列し、厳かに開催されました。

式典は、町内遺族会7支部の代表が、先の大戦で犠牲となられた日野町出身1千余柱の霊簿を祭壇に奉納し、遺族会代表および藤澤直広日野町長の献花と、参列者一同の黙祷で、戦没者のご冥福をお祈りしました。

藤澤町長は「戦後71年、日野町の平和と繁栄は、先の大戦による犠牲の上に成り立っている。戦争の悲惨な体験を次の世代に伝えて行くことが私たちの使命。恒久平和の実現に向けて努力し、豊かな郷土を築いていくことを誓います」と式辞を述べられました。

続いて、三日月大造滋賀県知事メッセージ、岸田孝一滋賀県遺族会長、滋賀県議会議員など来賓による追悼の式辞があり、最後に参列者全員で



献花する遺族代表

の献花が行われました。式の終りにあたり、日野町遺族会代表として私が「戦争の惨禍が二度と起らないようにとの思いで、遺族会の活動を進めている。町主催の追悼式を挙行していただき感謝しているが、戦後71年、遺族会も高齢化により参列者が年々減少しているのが現状であり、この追悼式に一人でも多くの町民の方に参加していただけるよう検討いただき、式典が末永く続けられることを願っています」と式典のあり方について遺族会の思いを述べました。

愛荘町平和のつどい

愛荘町遺族会 土田 幸夫

平成28年7月24日、戦没者や戦争の犠牲となられた人たちに哀悼の誠を捧げる「愛荘町平和のつどい(平成28年度)」が愛荘町平和のつどい実行委員会主催で、愛荘町立福祉センター・ラポール秦荘で開かれた。式典では、主催した成宮純一愛荘町社会福祉協議会会長の追悼のことばに続いて、珠久清次愛荘町遺族会長が「再び悲惨な戦争を繰り返してはならない。戦争を風化させないためにも、慰霊のつどいの続行を望む」と、追悼のことばを述べた。

町内有志から吟詠「有感」が奉納された後、宇野一雄愛荘町長、外川善正町議会議長の追悼のことばへと続いた。次に、藤澤喜八郎滋賀県遺族会副会長ほか来賓の皆さんを紹介し、平成28年3月に次世代戦跡訪問研修に参加した愛荘町立秦荘東小学校6年生の村西功成さんが次のように体験発表を行った。

「ぼくは、いろいろな施設を見学して、初めて戦争の恐ろしさ、そして命の尊さを知りました。ぼくはこの3日間

有	感	山	元	錦	城
國	破	年	弥	貧	放
人	倫	叛	換	欲	心
西	方	戰	火	未	終
南	海	個	洲	愈	速
天	刃	激	動	亡	多
風	雨	狂	瀾	變	太
須	識	佛	神	真	啓
慰	靈	無	尽	願	平
					和

愛荘町内有志により奉納された吟詠「有感」